

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Maternal excessive weight gain as a potential risk factor for prolonged labor in Japanese Pregnant Women: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠中の過剰な体重増加と分娩遷延との関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター(山梨)

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLOS ONE

年: 2024

DOI: 10.1371/journal.pone.0306247

筆頭著者名: 篠原諭史

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター(山梨)

目的:

欧米の報告では、妊娠中の過剰な体重増加は分娩遷延リスクの上昇と関連しているとされています。しかし、本邦は EU 諸国やアメリカ合衆国などの妊婦と比較し、痩せ型妊婦が多いことが特徴とされています。本邦においても同様の関連が認められるかどうかについて、エコチル調査のデータを用いて検討しました。

方法:

研究同意を得てエコチル調査に参加した妊婦のうち、欠損データのない 71,154 名(初産婦は 28,442 名)のデータを用いて解析しました。妊娠中の過剰な体重増加と分娩遷延との関連について、その他のリスク因子を含めて、多変量解析を行いました。日本人の分娩時間について最近報告された論文に基づき、分娩遷延は陣痛開始から出産までの時間が、初産婦は 23.2 時間以上、経産婦は 12.7 時間以上と定義しました。

結果:

分娩遷延は初産婦では 10.2% (2,907/28,442)、経産婦では 6.1% (2,597/42,712) で生じました。多変量解析の結果、初産婦、経産婦ともに過剰な体重増加は分娩遷延のリスクとなることがわかりました。妊娠中の過剰な体重増加を認めた妊婦は、正常群と比較して初産婦では 42 分、経産婦では 24 分の分娩時間の差を認めました。

考察(研究の限界を含める):

妊娠中の過剰な体重増加と分娩遷延との関連については、欧米の報告の見解と今回の研究結果は一致しました。これは、適切な妊娠中の体重管理が、分娩遷延に伴う有害事象を防ぐ上で重要であることが、国や民族を超えて共通であることを示唆していると考えます。本研究の限界は、分娩が停滞または停止したため帝王切開になった症例を解析に含むことが出来なかった事です。また、分娩時間の遷延は、初産婦では 42 分、経産婦では 24 分と比較的短い時間であり、これがどれくらい実臨床において意味があるかについては評価が必要です。

結論:

妊娠中の過剰な体重増加と分娩遷延との関連について本邦でも有意な関連があることがわかりました。しかし、この結果を一般的に周知するには、今回の研究は限界点を踏まえ、さらなる検討が必要と考えます。